

【ねがいましては】

平成28年4月25日

KYOWA SCHOOL

第306号

「期待は効果？」

オリンピックが近づいてくると、あちらこちらで「〇〇さんに期待したいですね。」などと、TV画面から聞こえてくるが多くなりました。

お母さんたちにとって、家族の期待の星はなんといってもお子さんです。小学校へ入学すると始まる評価。教科書の内容をしっかりと把握しているのか気になるところです。それを確認するのがテスト結果です。まずは学校からの返却テストの上方にある数字・・・そして目はバツの部分へと注がれます。「何、こんなやさしいところで間違えている。」少しですが出てくる心の汗・・・。「どうしよう、このまま成績不振だったら・・・。」不安が全身に広がります。

将来展望は悪い方向へと大きく舵を取っていきます。結構マルの部分に目が行かないようです。そして、子どもたちが必ずやってしまう選択問題のくじ引き・・・。それでも合っていればお母さんたちは目を走らせることはないようです。やはりバツの部分に目が行きがち・・・。まぐれで合っていれば目は行きません。子どもたちはそれを知っています。結果必ずわからなくても選びます。

さて、期待されたオリンピックの選手たち。多くの支えが彼らにはいます。1人の選手にどれほどの方々が携わっているのでしょうか。心理的な面のケア専門の方もいるはずです。大きな期待を受けながらも平常心を保ち、普段練習で見せている100%の力を本番で発揮できるよう支えてくれているはずです。

ではお子さんたちは・・・。心のケアで最も協力しなければならぬ方がお母さんです。まさか、専属の臨床心理士をお付けになっている方はいないでしょう。テストで実力を100%発揮できるよう、心のケアをしっかり受けているお子さん・・・。まさかですよ。

子どもたちの心はとても弱くナイーブなものです。当たり前です。成長の過程で徐々に心もタフになり大人へと成長していくわけですから・・・。成人までの道のりの中で出会う失敗の数々、それをひとつずつ乗り越えながら大人へと成長します。謝ることを覚え、反省することを覚え、社会で必要とされる「ひと」へと変化していきます。その過程の中で大きな支えとなるのがお母さんです。つまり子がミスをするたびに、身近な存在の臨床心理士が必要になります。それがお母さんです。

ここに通うAちゃんはお母さんからある一言を何度も言われます。「あなたは私の子なんだから、そんなに頭なんか良くないのよ。」その一言がどれだけところに優しく降り注ぐことか。Aちゃんは中学を卒業し、高校へ行ってからも通ってきてくれています。そして、定期テストが近づくと「高校生ランチ」(丸1日マイペースで机に向かう勉強会)に自らの判断で参加します。けっしてお母さんから「行きなさい」とは言われません。高校へ特待生として進学したプレッシャーもあるのかもしれませんが、そんなあたたかい言葉を投げかけてくれるお母さんへの感謝もあるのでしょうか。しっかりと自立のトレーニングができているようです。

3月、加盟している連盟の集会があり、講師としてオリンピック2大会連続金メダリスト谷本歩実さんの講演がありました。初めてのオリンピック、そこでの決勝、コーチの古賀さんから一言・・・「女優になれ」・・・この一言で平常心を持つことができたとおっしゃっていました。

私たちには想像のつかないプレッシャーを持つのは当たり前、大死一番、しっかりと足が地に着いた瞬間を覚えたそうです。つまり心が安心感で満たされる瞬間です。

子にとっての大切なコーチはお母さんです。学校でのテストは繰り返されます。そのテストのたびに、愚痴で飾られる子・・・子のところをご想像ください。

テストに挑む子、お母さんから投げかけられた大切な一言を胸に、安心感に包まれながら机に向かいます。わからないところが出てきました。「おかあさん、ごめんね。」子は、母への思いから小さくつぶやきます。

そしてテストが返却されます。「おやおや、やっぱりあんたはお母さんの子だね。おんなじ間違いをやった覚えがあるよ。」子は思います。「おかあさん、今度は同じ間違いいしないようにしっかりとがんばるからね。」

母と子は強い絆で結ばれています。

「おかあさんは、あなたに期待はしているわよ。でもねそれは成績という数字で飾られるものじゃないのよ。あなたが毎日見せてくれるその笑顔が、ずっとずっと私の前にあることなの。そしてやがてやってくる私の天国への旅立ちの瞬間、目の前で同じように笑顔を見せて欲しいのよ。」

「おかあさん、わたし、おかあさんみたいなお母さんになってみせる。ありがとう。」

そんな心根を持ったお子さんに悪いことなどできるはずがありません。きっと、しっかりと宿題やるし、しっかりと朝、自分で起きるし、自分のことは自分でやろうと努めるでしょう。

新学期、教室の風景をご覧になる方がいらっしやいます。私はそこで声を大にして言えること、「勉強は苦手っ子さんたちばかりですけど、人柄は100点の子たちばかりです。それだけは自慢できるんです。」

みんな、ありがとう。